

大豆情報

(第4号)

平成29年7月20日
あおば農業協同組合
各地区農業技術者協議会

「適期に確実な防除」、「適切な畦間(うねま)かん水」で
収量・品質を高めましょう!

1. 病害虫防除 ~適期の病害虫防除により、高品質な大豆に仕上げましょう!~

○紫斑病予防のため、2回の基本防除は適期に確実にいき、カメムシ類、チョウ目幼虫等の発生状況に応じて早急に防除しましょう。

防除体系	防除時期の目安	対象病害虫	薬剤名 【粉剤体系】	10a 当たり 散布量	薬剤名 【液剤体系】	10a 当たり 散布量
基本 (1回目)	8月上旬中旬 (莢が伸びきった頃)	紫斑病 カメムシ類 マメシクイガ	スミチオンベルコート 粉剤 DL (収穫 21 日前まで)	3kg	ベルコートフロアブル(1000 倍) (収穫 7 日前まで)	150ℓ
					ダントツフロアブル(2500 倍) (収穫 7 日前まで)	
基本 (2回目)	8月中下旬 (1回目の10~14日後)	紫斑病 カメムシ類	Zポルドートレボン粉剤 DL (収穫 14 日前まで)	4kg	アミスタートレボン SE (1000 倍) (収穫 14 日前まで)	150ℓ
随時	7月下旬~8月上旬	ウコンノメイガ (ハマキムシ)	サイアノックス粉剤 (収穫 7 日前まで)	4kg	プレバソフロアブル 5 (4000 倍) (収穫 7 日前まで)	150ℓ
	8月下旬~9月上旬	マメシクイガ				
随時	8月下旬~9月中旬	フタスジヒメハムシ、 カメムシ類、アブラム シ類、マメシクイガ	スタークル粉剤 DL (収穫 7 日前まで)	3kg	ダントツフロアブル(2500 倍) (収穫 7 日前まで)	150ℓ
随時	8月下旬~9月中旬	ハスモンヨトウ カメムシ類	トレボン粉剤 DL (収穫 14 日前まで)	4kg	トレボン乳剤(1000 倍) (収穫 14 日前まで)	150ℓ

農薬の散布は、使用基準を必ず守り、風速・風向きに注意し、周辺への飛散防止に努めましょう。

2. 干ばつ時の畦間かん水 ~開花期から9月上旬頃までの畦間かん水により干ばつ回避~

- 開花期(7月下旬)から40日間は、大豆が最も水を必要とする時期です。
- 水不足は莢数や収量の減少につながることから、3日以上晴天日が続き、先端の葉が立ち始めたら、短時間で畦間かん水を行きましょう。
- かん水は、ほ場全体に水が行き渡ったら水口をしっかり止め、速やかに排水してください。
- 9月の上旬までは、土壌の乾き具合に応じて適宜かん水をしましょう。

~畦間かん水の様子~
開花期以降降水不足にしない



【畦間かん水の効果】

- ・根粒活性の維持
- ・稔実莢数、百粒重の確保
- ・青立ちの発生防止
- ・しわ粒の発生軽減



うら面に続く

前回（3号）でもお知らせしましたが、再度雑草対策についてお知らせします。

3. 雑草防除

【難防除雑草の発生に注意】

大豆ほ場への侵入・蔓延を防ぐため、早めに発見し、種子を作る前に除草しましょう。

除草方法は各地区営農経済センターにご相談ください。

○除草剤は、雑草の種類及び生育状況、大豆の生育状況から判断し、適期を逃さずに散布しましょう。

○畦間・株間処理は、吊り下げノズルが必要となります。薬剤が大豆に直接かからないよう注意して散布してください。薬剤が大豆に付着すると葉が黄化する等の薬害が生じます。

(※抜き取った場合は、そのまま放置せず、ほ場外で適切に処理しましょう。)

イヌホオズキ↓



マルバルコウ↑

薬剤名	対象雑草	10a 当たり散布量	使用方法	使用時期	使用回数
ポルトフロアブル	1年生イネ科雑草 (スズメカビラを除く)	薬量 200～300mℓ (水 100ℓ で希釈)	雑草茎葉 散布	イネ科雑草 3～10 葉期 ただし、収穫 30 日前まで	1 回
大豆バサグラン 液剤	1年生雑草 (イネ科を除く)	薬量 300～500mℓ (水 100ℓ で希釈)	畦間処理	大豆の生育期(雑草 6 葉期まで) ただし収穫 45 日前まで	1 回
ロックス	1年生雑草	薬量 100～200g (水 100ℓ で希釈)	畦間・株間 処理	本葉 3 葉期以降 雑草生育期(草丈 15cm 以下)ただし、収穫 30 日前まで	1 回
バスタ液剤	1年生雑草	薬量 300～500mℓ (水 100ℓ で希釈)	畦間・株間 処理	本葉 5 葉期以降 雑草生育期 ただし、収穫 28 日前まで	3 回

※ 詳しくは各地区営農経済センターにご確認ください。

【難防除雑草（帰化雑草等）のほ場へのまん延防止対策】

難防除雑草が発生しているほ場では、結実前に抜き取り、または有効な除草剤を使用して対処するとともに、今後は、これ以上雑草がまん延しないように、以下の点に留意して作業を行いましょう。

- ① 刈り払う場合は再生防止のために地際から行う（雑草は、ほ場外で処分する）
- ② 種子が結実してしまった場合、収穫後はすき込みを実施しない（地表面に落下した種子をそのまま放置し、発芽能力を低下させる）
- ③ 難防除雑草が発生しているほ場の機械作業の順番を後にする（トラクター、コンバイン等）
- ④ 機械の清掃を徹底する
- ⑤ 粗選別時のゴミは、ほ場外で適切に処分する

とやま GAP（富山県適正農業規範）に基づき、安全に作業しましょう。

大豆情報第5号は、9月下旬の発行予定です。